

もとす教道研会報 第48号 令和7年3月31日

発行所:岐阜県モラロジー連絡協議会
Tel/058-214-6224 Fax/-6225

実践研究会を開催!

令和7年2月22日(日)第16回実践研究会を北方町コミュニティセンター会議室で行いました。雪景色の中、開催の心配もありましたが、「**道德教育を充実させるために!**」のテーマで、予定通り行いました。今回は、北方町を代表し町立北学園・浜野美奈教諭、瑞穂市を代表し本田小学校・井上大嗣教諭に発表していただきました。北学園の川瀬和弘校長先生、本田小の伊藤智子校長先生はじめ、多くの先生が参加してくださいました。総勢17名が参加、充実した実践研究会となりました。10時、**清水季代**副会長による軽妙な言葉かけをきっかけに開会となりました。



まずは、**森山政紀**会長の挨拶です。

「歴代の実践研究会発表者をご覧ください」

実に多くの方に学ぶことが出来ました。今回もご提案のご両名に発表をお願いすることが出来ました。感謝です。次に、公益財団法人モラロジー道德教育財団は創立100年を来年に控え、様々な活動を展開しております。資料には、これまでの歴史の紹介と共に、未来に「つなぐ」三つの柱が示しておりますのでお読みください。そして、第62回道徳教育研究会の計画書です。岐阜瑞穂大会として本会が主体的な運営母体となります。講師には、岐阜聖徳学園大学の河合宜昌先生、麗澤瑞浪中学・高等学校の藤田知則校長先生がお引き受けくださいました。そこで提案ですが、この会を本会の花道としたいと思いますのでご協力をお願いします」
続いて、参加者全員による自己紹介がお席の順に進められました。



仲間とのつながりの中で自己をみつめ、よりよく生きようとする児童生徒の育成

発表者: 北方町立北学園 浜野 美奈 教諭

「北学園は『北方学園構想』に基づき、義務教育学校として幼保小中一貫教育の『15年間カリキュラム』を踏まえ取り組んでいます。

『自ら考えよりよく生きる』ために、『1部1～4年』『2部5～7年』『3部8・9年』の成長段階に即した教育を行っています。

本日は、道德教育の実践を発表するという

ことで、主に3観点でお話を進めさせていただきます。『重点と方向の設定と道德の授業』では、授業の見届けの視点を評価に結び付けて考えます。どの授業でも『何を』『何で』『何から』を意識すると活動が明確になります。そして『自分自身との関りの中で深めているか』

『多面的・多角的な見方へ発展しているか』を見るのです。具体的には、学年会や職員研修で深め合っています。『児童生徒の道德性に着目した日常の諸活動』についてです。授業では『北方科』の特設、行事では異学年交流の『くすの木遊び』等が挙げられます。『かがやき見つけカード』を贈り合ってお互いの宝物にしています。『家庭や地域と連携した道德教育の推進』としては、子どもサミットの日の積み上げが大きいです。児童生徒会が『笑顔でつながる』呼びかけをして自分から進んで『あいさつ運動』に取り組む姿が見られます。ラジオ体操を積極的に呼びかけ、大人も巻き込んでの姿が見られました。

1,047名の児童生徒を温かく見守り、協力しようという保護者や地域の皆様に支えられて、教職員111名は今頑張っております」



共に生きる喜びをつくりだす子の育成 ～仲間と共に自己の生き方について「考え、議論する」道徳の時間の在り方～

発表者：瑞穂市立本田小学校 井上 大嗣 教諭

「発表の場をいただき感謝します。私は伝統ある本田小道徳の研究担当として、その時々課題について皆で向かえるように努めています。今回は『考え、議論する』授業の実現を追求しました。研究内容1はその『指導過程の工夫』です。まず児童の『実態と思考の流れに即したねらいと展開の工夫』です。価値・実態・教材分析により本時のねらいを明確にし、導入・展開・終末における指導援助を明示した指導案となります。導入では、価値への導入と登場人物への導入があります。主体的な学びとなる主人公への感想を大切に、児童の『すてきだな』『おいしい』『この気持ち分かるな』『考えてみたい』の4つから感想交流し、基本発問・中心発問へとつなげます。不十分な場合は補助発問を考えます。効果的だったものを『深めの発問』と位置付け、その後必要に応じ『3人討議』を行います。今年度『自己見つめ』で10分間取ることにしました。自分事として『自分は親切に出来ていただろうか…』『自分は誠実ということはどう捉えていたか…』じっくり向き合うことを大切にしました。次に『発達段階に応じた手立て』についてです。低学年部では、役割演技を通して『自分の考えを表出し、さらに見る側が仲間の考えから自分の考えを広げ深める姿』を求めています。例：『二つの小鳥』中学年部は、ペアの役割演技を通して『仲間と自分の考え方を比べて話し、仲間の考えを聞いて自分の考えの広がりや深まりを伝え合う姿』を求めています。高学年部は、3人討議です。『児童が主体的に話合いたい場面や課題を設定したり、仲間と考えを共有することで物事を多面的・多角的に考えたりして、自分の考えを伝え合い、変容を語る



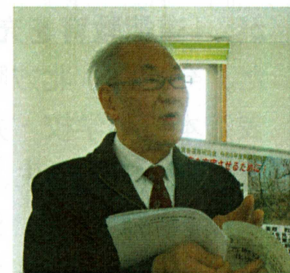
姿』を求めています。『最初はこう考えていたけど、〇〇さんのこういう考えを聞いて、今はこう思っています』のように変容を語るようにします。特別支援部は、役割演技（演者と観者）で『自立活動と関連付け、発達段階に合わせて自分の考えを話し、仲間の考えを受け止める姿』を求めています。続いて研究内容2ですが…（以下略）



質疑応答にも積極的にご発言をいただいたりしたのですが、紙面の都合上ご紹介出来ませんでした。会場の様子 ことご容赦ください。

林明夫顧問から指導助言をいただきました。

「第16回実践研究会にふさわしい、素晴らしい発表でした。『生きる』ことを真剣に考える道徳に力を入れるとよい子が育つ証明です。学校全体でどのように取り組むと良いか…、両校には確かな答えがあります。教員同士の学び合いが実に豊かに行われているということです。資料の扱いですが、良い資料というものは繰り返し読んでもその都度心を動かしてくれます。事前に読み込んだ『マザーテレサ』の実践は効果を挙げた好例になります。価値理解の場面で『何かもらえるかも知れない』のような授業者としてドギマギするような経験はありませんか…。『おじいさんのため』という気持ちはあるかな…、どちらが強いのか…。『少しはある』の反応に『よく見つけましたね』とほめてあげたいものです。『すてき見つけ』をされる場合は、枚数の優劣に陥らないようにし、教師自らがたくさん見つけてあげるよう頑張ってください」



神谷肇副会長より結びの挨拶がありました。

「今日の実践研究会は、最後の会になるということで残念な気持ちもありますが、発表者・参加者の皆様のお力により素晴らしい会になりました。16回分の感謝を込めまして厚くお礼申し上げます」と締めくくられました。

関係各位のご支援・ご尽力に対しまして、厚く御礼申し上げます。